

第3回桑名市地方創生会議 会議概要

日時・場所	平成27年8月24日（月）10：00～12：00 桑名市役所本庁舎 3階第二会議室
出席者	委員 11名 市 4名 事務局 3名 （三重大学3名） 傍聴 5名
会議次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 事項 （1）桑名市人口ビジョン（案）について （2）桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について 4. その他 5. 閉会
概要 （主な意見）	3. 事項 （1）桑名市人口ビジョン（案）について ・市の財政を含め、市を維持していく上で人口減少は深刻な問題としてとらえられる（人口が減ると、市の収入が減少するので、一定の人口確保は重要）。そのため、政策を立てる際には、市を維持していくための最低人口数を想定することが望ましい。 ・桑名市で子どもを産み、生活、住み続けることは、自然増減に影響し、外からの人を増やす（インバウンド）には、まちの魅力を足していくことが重要であり、これは社会増減に影響を及ぼす。 ・【質問】合計特殊出生率が、2.07と設定されているが、この数字はどのように設定したのか。そして、どのような方法で達成できるのか。（出生率を上げることは、女性の負担になる。） 【答え】2.07は国及び三重県が示している目標値であり、桑名市特有の目標値ではない。桑名市の政策だけでは達成が難しいことは明らかであり、今後国も目標達成のために様々な手を打つと考える。 ・合計特殊出生率を2.07に設定する前に、現在、なぜ出生率が低下したのかその原因を考えることが重要である。 （2）桑名市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について ・外国人を呼び込むには、観光以外の方法もある。愛知県だと、農業で外国人研修制度を取り入れており、外国人が働いているケースが多

	い。桑名市は、外国人に接する機会が少ないため、これからは様々な方法で外国人と接する機会を作った方が良い。 ・桑名市を代表する仕事を、今後桑名市民だけで担うことができない場合（例えば、農業）、桑名市を共に作っていく存在として外国人を受け入れることも重要である。 ・三重県には工業系大学が少ない（三重大学のみ）。また、現在、産学連携が重要なキーワードになっているので、北勢地域において地域と連携できる教育機関が必要だと思う。 ・【質問】子供を２人以上生んだ場合、親はどのようなことに負担を感じるのか。 ・【答え】①子育てを手伝ってくれる人の存在の有無、②子どもの安全確保が負担になる。 ・【質問】桑名市外の学校に子どもが通う場合、経済的な面での負担はどのようなものなのか。 ・【答え】教育費（交通費や家賃含む）の負担が大きい。 ・新病院が建ち、出産からその後のケアまで、医療機関の体制が出来上がる方向だが、未だに四日市や名古屋の病院に通う市民が多いと思う。行政は、もっと病院の機能を知らせてはどうか。 ・子どもの出産、そして、その後のケアや教育の面において、桑名市民が市外に出ないだけでも、人口は確保できる可能性がある。 ・桑名市の魅力のような、ポイント的な施策を少し組むだけで桑名市の人口を確保できる可能性があるのではないかな。 ・施策としては、ソフトの施策が想定されるが、今、進めていかなければならない施策やハード施策の面でも、どのように整備していくのか、現状等を分析しながら、ソフト事業と一緒に考えていく必要があるのではないかな。 ・行政が市内の会社経営者や自営業者の承継や、継続的な営業のため大切にしていることを把握していくことで、桑名市の中核産業はより発展できると思う。 ・産業の面では、ブランド化の促進が大事だと思う。そして、人口の増加やベッタウンの機能を果たすためにも、桑名駅周辺の整備はとても重要である。 ・新病院は、今後出産だけではなく、高齢者のケアの面でも大きな潜在力を持っている。 ・今後バスの整備や駅周辺の設備が整ったら、市外からの人口移動が増加すると思う。
--	---

	・総合戦略の８ページ、１６ページに示されている「都市デザイン」をどのようにして描き切るかが重要なポイントである。例えばＩＣから立ち寄る場として桑名の魅力をアピールすることも可能ではないか。 ・都市デザインに「安全・安心」は欠かせないポイントである。また、産業面では、質のいい人材をどのように確保するのか、そして日本の文化（まちの良さ）をいかにアピールし、観光客を増やすかのような、様々な方向から政策を考えるべきである。 ・サービス業において、女性と子どもに焦点をあてることが大事。「女性が住みやすいまち」、「住みたいと思うまち」にしていくことも、とても重要である。 ・桑名市は、まちに特長がない。海外だと、まちの壁の色を統一させるなどして独特な雰囲気を作り、それを観光地としてアピールしていることが多い。桑名市も、簡単な方法でまとまった雰囲気、おしゃれなまちを目指すことも良いと考える。 ・空き家を行政が整備し、シングルマザーや外国人に提供することもインバウンドの増加に役立つことも考えられる。 ・駅前のロータリーを利用して、桑名の観光地を宣伝していくことも大事であり、石取会館のように文化や歴史に関わる建物の整備も必要である。 ・子どもを産み、育てるのに魅力的なまちにすることが大事である。安心して産み、育てられるということは、子育てのケアや防災、教育、仕事、観光の産業化などにも繋がっていく。そこで、これらをつなげるのが、桑名のブランド化（ブランド力）である。 ・国際化において、受け入れ側のサービスが重要である。まずターゲットをどこの国にするかによって、サービスの種類が違ってくる。今は、まだ受け入れ態勢が整っていないため、今あるものでアピールできる国を決めて、国際化を進めることが重要だと思う。 ・桑名市は、三重県内の他市に比べて人口も安定しており、社会増もわずかながら続いている状況である。これは、良い傾向ではあるが、逆に大胆な戦略の策定が難しいことでもある。 ・ＰＤＣＡのＣは、「Check」を意味する。つまり、市民の意識が政策の進行により、どのように変化していくかを定期的にチェックしていくことが重要である。 ・子育て支援センター等での行事（コンサート等）をもっと宣伝していくことも重要である。 ・図書館の休みの日にコンサートを開くなど、芸術と市民生活が一体と
--	--

	なったイベントも良いかもしれない。 ・学生が自立的に生活できるということは、安全・安心なまちであることを意味する。親だけが子供の面倒を見るのではなく、社会がそれを補うような「子供の自立を促すまち」として、政策を整えていくことも考えられる。
担当課	市長公室 政策経営課